

特集のとびら

『徳(豊かな心)』と『体(健やかな体)』をはぐくむ

「コーヒー一杯の思い出」

教育研究所主任指導主事兼調査研究係長 富田 英雄

忘れられない出来事がある。今から16年前、静岡県御殿場市で開催された「青少年赤十字全国交流集会～はじめの一步～」の指導者として参加した時のことである。この集会は世界各国の代表児童・生徒500名が集まり、ボランティア体験、ワークショップ等を通して、人道や奉仕の精神を学ぶものであった。予定していたプログラムもほぼ終了した最終日前夜、「車椅子体験」、「日本のお正月体験」、「暗闇の世界」等30種以上ある「屋台」を参加児童が体験するイベントが開催された。私の担当は「夜空を見ながらコーヒーを飲み、夢を語り合おう」であった。開始時刻には200名以上の児童生徒がコーヒーをもらおうと列をなした。予想を上回る人数に、私一人では到底、対応できるわけがない。困り果てていたとき、前から3番目に並んでいた女子生徒が列から離れ、私の手伝いを始めた。彼女は、黙々と私の手伝いをしてくれた。1時間以上経過し、全員がコーヒーを手にして会話に花を咲かせていたとき、彼女が私の前に立ち、「コーヒーを一杯ください。」と言った。

彼女は韓国の女子生徒であった。私が困っているのを見て、コーヒーを早くもらいたいのを我慢して手伝ったとのこと。さらに話を聞くと、小さいときから家や学校では「思いやりの心」、「人や社会のために尽くすこと」について繰り返し学んだ。そして、多くのボランティア活動を行って行く中で、人の気持ちが分かるようになってきたという。はじめから人の気持ちを理解できたのではなく、受けてきた教育が大きく影響していることを彼女との会話を通して実感した。

さいたま市では、「知」、「徳」、「体」、「コミュニケーション」のバランスのとれた子どもをはぐくむことを目指している。今年度実施された全国学力・学習状況調査の質問紙調査結果から、さいたま市の児童生徒は、全国的にみても「人の気持ちが分かる人間になりたい」、「人の役に立ちたい」、「人が困っているとき助けたい」と回答した割合が多かった。その思いや願いを実現させるのは、学校であり、家庭であり、地域、行政である。これらが連携して計画的、継続的に「徳」(豊かな心)の育成を目指した教育活動を確実に行うことが重要なのだと、16年前の出来事を振り返り改めて感じた。